

東日本大震災における生活支援相談員の 支援課題に関する調査研究

被災者支援研究会

〒238-0014 横須賀市三春町 3-9-3 ニューライズマンション 401

助成事業の概要

○実施目的

本研究では、東日本大震災で仮設住宅棟に配置された生活支援相談員の課題を浮き彫りにし、今後のあり方を提言としてまとめ、その内容について社会福祉協議会をはじめ、広く社会にPRしていくことで、今後、生活支援相談員がより被災者支援を行いやすい環境を整えていくことを目的とした。

○時期

・ヒアリング

24年7月22日 岩手県内 生活支援相談員
ヒアリング (1名)

24年7月23日 宮城県内 社会福祉協議会
職員ヒアリング (1名)

24年11月3日 宮城県内 生活支援相談員
& 社会福祉協議会ヒアリング (7名)

・研究会

24年5月13日 第1回研究会

24年7月29日 第2回研究会

24年11月23日 第3回研究会

25年3月10日 第4回研究会

○内容

・ヒアリング

被災地の現場で支援を行っている生活支援相談員や社会福祉協議会職員を対象としたヒアリング調査を実施した。

・研究会

上記、ヒアリングに関して被災地での支援者、専門家を交えて議論を行った。

事業の成果

○目的達成度

本研究により、生活支援相談員の課題を浮き彫りにすることができた。特に、東日本大震災に特有な課題を明らかにできたことは大きな成果であった。しかし、大きな被害を受けた相談員も多くいることを踏まえると、特にメンタルな面においては1～2時間のヒアリングで本音を語って頂けたかどうか疑問が残る。目標達成度としては7割程度である。

○得られた成果や課題

相談員の役割や意義については大きく新潟県中越地震と変わらなかった。このことから、生活支援相談員としての意義等を再整理できるのではないかと考えられる。しかし、課題面では新潟県中越地震と大きく異なった。東日本大震災という未曾有の災害の中で生活支援相談員が新たな局面にぶつかっていることが浮き彫りとなった。特徴的なものとしては、数多くの相談員の配置に伴いそれをまとめるコーディネーターの存在の重要性というもの、また、生活支援相談員への精神的なフォロー、研修は受けても相談員ごとに支援の視点や仕方がバラバラである、というものである。生活支援相談員の今後の支援環境を整備するうえで非常に重要な発見と言える。

成果の広報、公表

「東日本大震災における生活支援相談員の機能と支援課題に関する研究報告書」として、報告書

を 150 部作成しており、関係団体に配布を行っている。また、被災者支援研究会のホームページにて公表している。

■ 今後の展開

今後は、今回の事業により浮き彫りになった課題を解決していくためには何が必要かについて研究を深めていく予定である。また、最前線で働く生活支援相談員を側面的に支援できる冊子を作成していきたい。